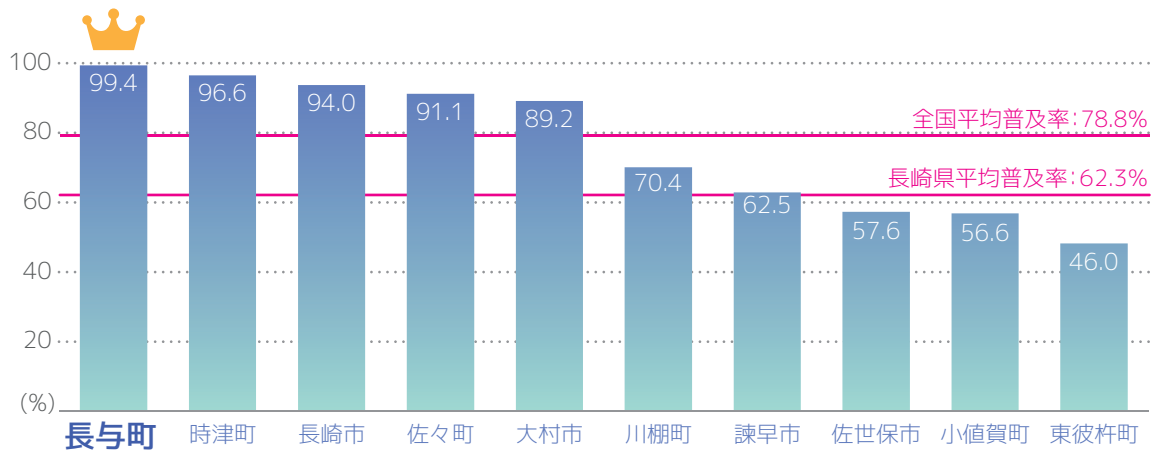


長与町の下水道事業

県内上位の下水道普及率！！

昭和 48 年度に公共下水道事業に着手した長与町の下水道普及率は、**99.4% (H30.3 現在)**と、長崎県下では**最も高い普及率**を誇っています。



【平成 29 年度末 長崎県内下水道普及率上位 10 市町村 (H30.3.31 現在)】

全体計画・事業計画の概要

		事業計画	全体計画
計画目標年次		平成 33 年	平成 45 年
区 域		872.56ha	942.10ha
人 口	行 政	42,600 人	41,500 人
	計 画	38,300 人	39,200 人
汚水量 原単位	日 平 均	250ℓ / 人	250ℓ / 人
	日 最 大	300ℓ / 人	300ℓ / 人
	時 間 最 大	450ℓ / 人	450ℓ / 人
計画汚水量 (日最大)	家 庭	13,170m ³ / 日	13,590m ³ / 日
	工場排水	230m ³ / 日	410m ³ / 日
	計 画	13,400m ³ / 日	14,000m ³ / 日

下水道事業着手の動機

■ 当時の長与

明治 22 年、人口約 5 千人の長与村が誕生。昭和 44 年に長与村から長与町へ移行し、その当時の人口は 13,504 人でした。

本町は、柑橘栽培が主体の純農村地帯でしたが、昭和 45 年頃から長崎市街地が北部に伸びるに伴い、通勤圏としても住宅都市の要素が高まり、宅地化が進みはじめ、人口は増加の一途をたどっていました。



① 新都市計画法の制定により新しい町づくりの必要性が向上

昭和 46 年の新都市計画法において、市街化計画法による市街化区域等の決定がなされ、新しい町づくりを図るため、「農・緑・住」を柱とした緑と住宅の町、心のふれあうふるさと長与づくりを積極的に推進し、都市的環境と農村的環境とが調和した豊かで暮らしやすい長与町の実現を念頭に、昭和 49 年に長与町第 1 次総合計画を策定し、各種の事業に取り組むこととなりました。

② 大型団地等の宅地改造計画の活発化

昭和 46 年頃より、民間開発業者による大型団地等の宅地改造計画がとりざたされ、宅地化に伴う上下水道問題や環境問題、公害問題なども見逃せないものとなりました。また、全国的にも、経済は高度成長から安定成長へと移りはじめ、都市化の進展による都市問題の深刻化が問題視されていました。

このため、長与町ではあらゆる方向から検討を加え、公園や上下水道施設はもちろんのこと、無計画な宅地開発をなくし、誰もが住みやすい町づくりを目指し、土地区画整理事業等都市基盤の整備に取り組んできました。

中でも、水道水源である長与川の保全是重要な課題でありました。

整備面積と水洗化率の推移

